

BUILMATEL CO., LTD.

施工要領書

エコロベースシステム

ビルマテル株式会社

目次

1. 使用材料	p.2
2. 使用工具	p.3
3. 施工手順	
3-1. 施工場所の清掃	p.4
3-2. エコロベース(耐根)フィルムの敷設	p.5
3-3. エコロベース(保水・排水)マットの敷設	p.6
3-4. エコロベース(通気・排水層)パイプの設置	p.7
3-5. エコロベース(透水)シートの敷設	p.8
3-6. エコロベースソイルCA/CAプラス (人工軽量土壌)の敷設・整地	p.9

◆適用範囲◆

本施工要領書は、ビルマテル株式会社のエコロベースシステムを用いた緑化基盤工事を適用の対象とします。

なお、本施工要領書では基本となる施工方法を記載しています。現場の状況等に応じて施工方法や使用材料の変更が必要になる場合もありますので、予め御了承下さい。

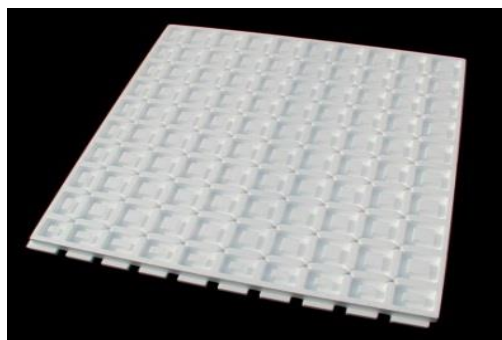
1. 使用材料

品名	規格
エコロベース(耐根)フィルム	2m × 25m 0.3mm 厚
エコロベース(保水・排水)マット25/45	1,000 × 1,000 × H45mm
エコロベース(通気・排水)パイプ	150Φ × 1,000mm
エコロベース(透水)シート	2m × 50m 0.24mm 厚
エコロベースソイル CA	1m ³ フレコンバック 小袋(60袋/m ³)

エコロベース(耐根)フィルム



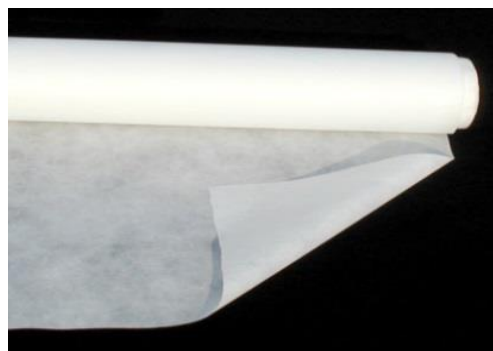
エコロベース(保水・排水)マット45



エコロベース(通気・排水)パイプ



エコロベース(透水)シート



エコロベースソイル CA/CA プラス(人工軽量土壌)
フレコンバック入り 小袋入り



2. 使用工具

品名	備考
手袋	
スケール(コンベックス)	寸法測定用
ホウキ・チリトリ	清掃用
カッターナイフ	耐根フィルム、保水・排水マット、透水シート切断用
ハサミ	耐根フィルム、透水シート切断用
スコップ	土壌敷設用
レーキ(トンボ)・ジョレン	土壌敷均し用
養生テープ・ガムテープ	耐根フィルム、保水・排水マット、透水シート仮止め用



3. 施工手順

3-1 施工場所の清掃

- ① ゴミや埃だけでなく、モルタルの付着物や、釘等も取り除いて下さい。
※床面に障害物がある場合、耐根性能・排水性能が低下する恐れがあります。

3-2 エコロベース(耐根)フィルムの敷設

※以下、「耐根フィルム」と表記

- ① 植栽柵に対して長手方向に耐根フィルムを転がし、敷設していきます。
- ② 水や根が耐根フィルムの重なり部分から流入しないようにする為、耐根フィルムは水勾配の下手側(排水ドレーン側)から敷設して下さい。耐根フィルムの重ね幅(ラップ)は通常200mm以上確保していますが、植物の種類や現場の状況に応じて重ね幅(ラップ)を多めにとる・耐根フィルムの重なり部分をテープで貼り付ける等の対応をして下さい。
- ③ 耐根フィルムはシワにならないよう、ピンと張った状態で敷設して下さい。
※シワがある場合、排水機能を阻害してしまう為。
- ④ 植栽柵の立ち上がり部は耐根フィルムを客土仕上げの高さまで立ち上げ、垂れ下がらないよう養生テープで仮止めして下さい。この際、立ち上がり部と床面の角はピッタリと納めて下さい。
※角の部分の耐根フィルムが浮いていると、土壌を入れた際に、その重みで耐根フィルムが下がってしまう為。
- ⑤ 植栽柵の立ち上がり・コーナー出隅部は切り取らず、角に合わせてから内側に折り畳んで納めて下さい。

⑥ 植栽柵の立ち上がり・コーナー入隅部は、角に合わせて耐根フィルムを切り取り、重ね幅(ラップ)を200mm以上確保出来る大きさの耐根フィルムを別途用意し上から重ねて下さい。現場状況によってはテープで貼り付けて下さい。

⑦ 植栽柵内にある排水口部の耐根フィルムはその排水口の形状に切り取って下さい。

※耐根フィルムに透水性能は無く、植栽柵内の水が排水されなくなる為。

※耐根フィルムがずれて排水口を塞いでしまうのを防ぐ為、一回り大きめに耐根フィルムを切り取って下さい。

※押えコンクリート等で保護されている防水以外(露出防水、シート防水、塗膜防水など)では施工時に防水を傷付けないよう御注意下さい。



3-3 エコロベース(保水・排水)マットの敷設

※以下、「保水・排水マット」と表記

- ① 保水・排水マットは4辺のうち2辺がオス、もう2辺がメスとなっているため、オス・メスがはまるように一定の向きで敷設して下さい。

※保水・排水マットには表裏があります。保水面(ドーナツ状の保水スペース)を上向きに敷設して下さい。

- ② 植栽柵内床全面に敷設していき、植栽柵の形状に応じて保水・排水マットを加工して下さい。カッターナイフにて切断可能です。

※加工をする際、下の耐根フィルムや防水面を切断してしまわないよう御注意下さい。

※エコロベースマットは軽く、風の影響を受けやすい為、風散には十分注意して施工して下さい。



3-4 エコロベース(通気・排水)パイプの設置

※以下、「通気・排水パイプ」と表記

- ① 通気・排水パイプは通気と排水の性能向上が目的の為、隙間なく敷設していきます。
※排水の経路を確保し、水の流れをよくする為に水勾配の水下側に一列並べたり、水勾配の上下の排水穴を連通させたりするように設置します。
※植栽柵内に排水口があり、ドレーンカバーを使用している場合、その周りに巻くよう設置します。

3-5 エコロベース(透水)シートの敷設

※以下、「透水シート」と表記

- ① 植栽柵に対して長手方向に透水シートを転がし、敷設していきます。
- ② 土壌がシートの重なり部分から流入しないようにする為、透水シートは水勾配の下手側(排水ドレーン側)から敷設していきます。透水シートの重ね幅(ラップ)は通常200mm以上確保していますが、風で透水シートがめくれてしまう等、施工条件によっては重ね幅(ラップ)を多めにとる・透水シートの重なり部分をテープで貼り付ける等の対応して下さい。
- ③ 植栽柵の立ち上がり部は透水シートを客土仕上げの高さまで立ち上げ、垂れ下がらないよう養生テープで仮止めして下さい。この際、立ち上がり部と床面の角はピッタリと納めて下さい。
※角の部分の透水シートが浮いていると、土壌を入れた際に、その重みで透水シートが下がってしまう為。
- ④ 植栽柵の立ち上がり・コーナー出隅部は切り取らず、角に合わせてから内側に折り畳んで納めて下さい。

- ⑤ 植栽柵の立ち上がり・コーナー入隅部も切り取らず、角を基準として巻き込むように納めて下さい。
- ④ スコップ等で透水シートを傷つけてしまった際は、損傷部から土壌が流出しないよう、重ね幅(ラップ)を200mm以上確保出来る大きさの透水シートを別途用意し重ねて下さい。現場状況によってはテープで貼り付けて下さい。
- ⑤ 耐根フィルムと異なり、排水口部は切り抜かないで下さい。
※排水口部より土壌が流出してしまうため。



3-6 エコロベースソイル CA(人工軽量土壌)の敷設・整地

※以下、「土壌」と表記

- ① 客土仕上げの高さまで土壌を入れ、平らに均して下さい。
※透水シートの重ね(ラップ)部分・立ち上がり部分から土壌が流出しないよう注意して下さい。
- ② 土壌を入れ、客土の仕上がりから露出してしまった耐根フィルム・透水シートを切り取って下さい。
※耐根フィルム・透水シートの立ち上がり部分を仮止めしていた養生テープも剥がして下さい。

